

バスの中で

—公共の場でのマナーについて考える—

- 1 学年 第8学年（後期）
 2 主題名 公德心〔4－（2）〕
 3 ねらい
 バス通学での「私」の経験を通して、バス内が公共の場であり、お互いのことを配慮しながら行動する必要があることを理解し、公共マナーを守って行動しようとする態度を育てる。
 4 資料名 「バスの中で」
 5 展開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 友だちと過ごす楽しい時間について発表する。 ○ 友だちと何をしている時間が楽しいですか。	<ul style="list-style-type: none"> おしゃべり メール ゲーム クラブ活動 通学時 	○ 自由に発言させ、資料への興味付けを行う。
展開	2 資料「バスの中で」を読んで話し合う。 ○ 「私」はバス通学をどのように思っているのでしょうか。 ○ おばあちゃんの言葉が「私」の胸に突き刺さったのはなぜでしょう。 ◎ 「私」が「英子」と始めたひそひそ話はどんな話だったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 通学がバス通になったときは苦痛に思えた。 最高に楽しい友情タイム 楽しいおしゃべりの時間 自分たちのおしゃべりも迷惑をかけていたと気付いたから。 まわりの人たちの気持ちを考えていなかった自分に気付いたから。 これまで私はバスにはいろんな人が乗っているのに気に留めてなかったなあ。悪かった。 バスの中はいろんな人がいるんだよ。まわりの人に気を配って過ごそうね。 昨日、風邪で体調悪かったでしょ。バスの中で静かにしないとイケないというのがその立場になってはじめて分かったよ。気を付けようね。 自分も同じようなことをしているなあ。気を付けなければ。 道路でも歩行者のことを考えずに横並びで自転車に乗っているな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「私」に共感させる。実際にバス通学をしている生徒には聞いてみるとよい。 ○ 周りの視線が自分たちに向けられたように感じた主人公の心の動きに気付かせたい。 ○ ワークシートに書かせた後、役割演技を行い、「私」に代わって語らせることにより、公共の場における言動について考えさせる。その際に、指導者が「英子」役になり、「私」の話が反省を込めたものになるように切り返す。 ○ 公共の場でのマナーを振り返らせる。単なる反省に終わらせずに理由も付けて発表させる。
開	3 自分の普段の生活について振り返る。		
終末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 今までの自分は公共のマナーについて意識していなかった。これからは周りの人のことも考えて行動したい。 	○ 「心のノート」(P.99)を活用し、学んだこと、感じたことなどを書き留めさせておくとよい。

6 授業の概要

(1) 主題について

公德心とは社会生活の中で守るべき正しい道（公德）を大切にする心である。この心が一人一人の日常生活の中で具体的に生かされることで住みよい社会が実現できる。この社会のすべての人々が、自分も他人もともにによりよく生きようとしていることを自覚することから互いに助け合い励まし合おうとする自覚も出てくる。

しかし、マイカー等の普及により、バスやJR等を利用する機会が減る等、公共機関でのマナーを学ぶ機会が減ってきているのが現状である。

そこで、本資料を通して、バスの中には様々な人が乗っていることや、公共の場では他者への配慮や思いやりが必要であること等に気付かせたい。また、社会の中の自分の在り方、生き方についても見つめさせたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 実施の時期

バス通学の学校であれば新年度がスタートして間もない時期がよいと考える。そうでない学校では行楽シーズンや修学旅行等で公共の乗り物を利用する時期に扱うとよい。

イ 中心場面につながる基本発問

バスの中でのおしゃべりの楽しさに共感できる生徒は多いと思われる。中心発問を生かすために、その部分にしっかり共感させておきたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 展開前段の工夫

「ひそひそ話」の内容では、指導者が英子役を演じ、「私」の役割を生徒に演じさせるとよい。その際に「なぜ、そう思うようになったの。」「(具体的に) どんなことに気を付けようと思うの。」等、指導者が切り返し発問を行う中で思考を深めさせることがポイントである。また、意見を出しやすくするために、あらかじめ、ワークシートに記入させておくとよい。また、ペアトークをさせてから発表させることも一つの手立てである。

イ 展開後段の工夫

自分たちの生活を振り返らせるときに、「心のノート」(P.96～97)を活用すると、公共の場をイメージしやすくなり、生徒からも多様な意見が出しやすくなると思われる。

執筆者より

この資料は、バスの中で騒ぐ小学生を堂々と注意する高校生の姿に感動したことをきっかけに作成したものである。通学にバス、電車等を利用していない学校もあるので、資料の場面に限定することなく、公共の場をいかにイメージさせて展開後段に自分自身を振り返らせることができるかがねらいにせまるポイントである。

(音戸中学校 西本 聖子)